日向市
社会福祉協議会

社協だより

ハートフル
5月号
2021年

生活支援サポーター
山本結子さん

生活支援サポーターの新たな挑戦
～高齢者への買い物支援～

現在、日向市の高齢化率は32%。日常的な買い物に不安を感じる高齢者も増えている状況にあります。そこで、新たな生活支援の仕組みとして、スマホ・タブレットを活用した買い物支援に試験的に取り組んでいます。

スマホを活用しながら高齢者から依頼された日用品を購入し、自宅まで商品を届けています。また、商品を届けるだけではなく、地域に住む高齢者の見守りも兼ねて活動しています。まだ活動は始まったばかりですが、今までにない新たな方法を活用することで“住民相互の支え合い”の仕組みがさらに増えることが期待されています。

社会福祉法人　日向市社会福祉協議会

令和３年度「事業運営方針」と「収支予算」について

日向市社会福祉協議会　会長　黒　木　正　一

令和３年度は、令和３年４月に施行された改正社会福祉法、令和２年７月に示された「新たな市区町村社協の経営指針」(第２次改定版)等を踏まえて、『地域福祉を推進する中核的な団体として、地域住民及び福祉組織・関係者の協働により地域生活課題の解決に取り組み、誰もが支え合いながら安心して暮らすことができる「共に生きる豊かな地域社会づくり」を推進すること』を使命として各種事業に取り組んでまいります。

そのため、経営基盤や相談支援体制の強化を図るために「事務局組織の見直し」や「社協使命や経営理念、基本方針の見直し」を行い、「重層的支援体制整備事業」(移行準備事業)を新規事業として実施するほか、コロナ禍の中での相談支援のニーズの増加が見込まれる「生活困窮者自立支援事業」を拡充し、相談支援体制の強化を図ります。さらに、「地域包括ケアシステムの深化・推進」「地域共生社会の実現」に向けて、次の事業運営方針と５つの重点事業を中心に事業の展開を図ります。

また、社協運営の財務健全化を図るために、「介護保険事業等の運営体制の見直し」を実施するなど、長期にわたり持続可能な効率的・効果的な法人運営の推進に努めます。

なお、令和３年度の当初予算は、予算総額332,830千円(前年度比5.4％減・19,040千円減)の予算となっています。財源の内訳としましては、行政からの補助金・助成金・委託料等が218,448千円(予算総額の65.6％)、自主財源(会費・寄付金、負担金等)が114,382千円(予算総額の34.4％)となっています。令和３年度も厳しい財政状況の中、補助事業や受託事業、指定管理事業等の堅実な運営に努めながら、効率的・効果的な法人運営、経費節減に努め、地域福祉を推進する中核的な団体として、市民福祉の向上に努めてまいります。

事業展開にあたっては、引き続き、コロナ禍の中での「新しい生活様式」に対応しながら、行政と社協が「車の両輪」となって関係機関や団体、地域住民の皆様との連携協働を進めながら「地域共生社会」の実現に向けて取り組んでまいります。本年度も引き続き、市民の皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【令和３年度「事業運営方針」と「重点事業」の概要】

◇◇◇令和３年度「事業運営方針」◇◇◇
◎地域福祉を推進する中核的な団体として『誰もが支え合いながら安心して暮らすことができる「ともに生きる豊かな地域社会」づくり』を推進し「地域共生社会の実現」に向けた取り組みを進めます。 ◎「地域包括ケアシステム」の深化、推進を図り、誰もが住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせる地域を構築するために全世代型、全対象型の包括的な相談支援体制の構築に向けた取り組みを進めます。 ◎行政（日向市）職員の継続的派遣により職員体制の強化を図り、行政との連携協働の推進に努めます。 ◎新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底と「新しい生活様式」に対応した事業運営に努めます。 ◎安定した財源と予算、人材の確保に努め、効率的・効果的な予算の執行に努めます。
令和３年度「重点事業」（主な内容～重点事業説明参照）
◎重点事業１　「重層的支援体制整備事業（移行準備事業)」【新規・拡充】 ◎重点事業２　「生活困窮者自立支援事業」（日向市生活相談・支援センター「心から」事業）【拡充】 ◎重点事業３　「生活支援サービス体制構築等推進事業」（生活支援コーディネーター事業） ◎重点事業４　「放課後児童健全育成事業」（放課後児童クラブ）【拡充】 ◎重点事業５　「認知症地域支援体制構築等推進事業」
社協運営に係る財務健全化（事業見直し、経費節減等による効率的・効果的な社協運営）
◎介護保険事業等の運営体制の見直し(訪問介護事業等の拠点の東郷支所への統合) ◎自主財源の確保と効率的・効果的な法人運営の推進

令和３年度　日向市社会福祉協議会「収支予算」の概要

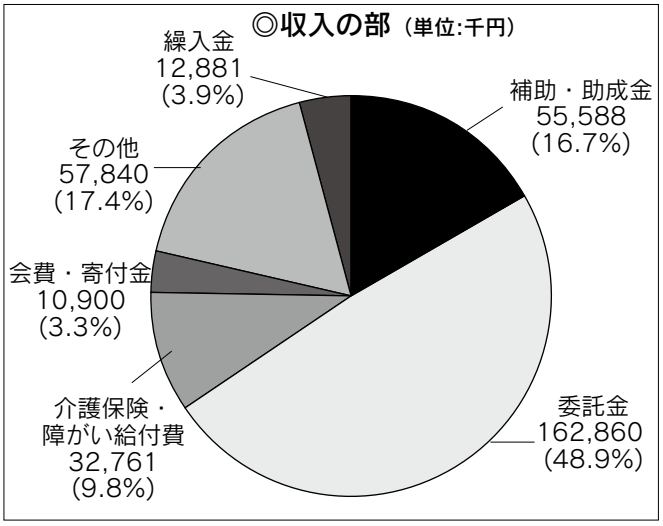
◎令和３年度　当初予算総額　332,830千円（前年度比△5.4%・19,040千円減）
（財源内訳）　◆補助・助成金、受託金等　218,448千円（前年度比　1.9%・ 4,044千円増）
◆自主財源(会費・寄付金等)　114,382千円（前年度比 △16.8%・23,084千円減）

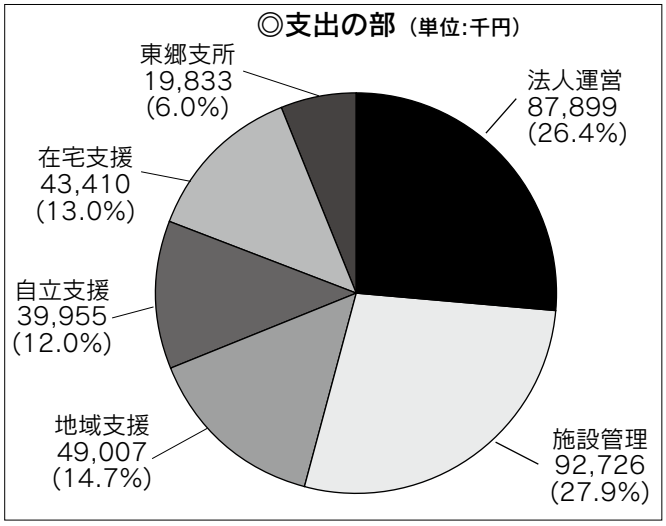
【収入の部】

科　目	金額(千円)	構成比	前年度比
補助・助成金	55,588	16.7%	△0.3%
委託金	162,860	48.9%	2.7%
介護保険･障がい給付費	32,761	9.8%	△20.2%
会費・寄付金	10,900	3.3%	4.5%
その他	57,840	17.4%	△12.3%
繰入金	12,881	3.9%	△35.7%
合　計	332,830	100.0%	△5.4%

【支出の部】

科　目	金額(千円)	構成比	前年度比
法人運営	87,899	26.4%	△13.5%
施設管理	92,726	27.9%	1.2%
地域支援	49,007	14.7%	0.9%
自立支援	39,955	12.0%	8.5%
在宅支援	43,410	13.0%	△19.4%
東郷支所	19,833	6.0%	7.4%
合　計	332,830	100.0%	△5.4%





【令和３年度重点事業（主な事業内容）】

1.「重層的支援体制整備事業（移行準備事業)」

令和3年4月に施行された改正社会福祉法に基づき、地域住民が相互に人格と個性を尊重し合いながら参加し共生する社会の実現を目指して、「地域共生社会」を推進する観点から本市における包括的・重層的な支援体制の構築を進めるために「断らない相談支援」「参加支援」「地域づくり」に向けた支援を一体的に行う支援体制の整備に取り組みます。

2.「生活困窮者自立支援事業」

日向市生活相談・支援センター「心から」において、「地域生活自立支援事業」を実施し、地域で自立した生活が困難な個人や世帯に対して総合相談体制の強化を図り、自立した生活を送るために必要な支援を関係機関と連携を図り展開していきます。

特に、コロナ禍の中での相談支援の増加へ対応するために「生活困窮者自立支援事業」の必須事業である「自立相談支援事業」を拡充し、相談支援体制の強化を図ります。

3.「生活支援サービス体制構築等推進事業」

日常生活圏域(日向市が定める地域包括支援センター６圏域)に６名の「生活支援コーディネーター」を配置し、地域の特性に応じた個別課題や地域課題の把握に努め、地域資源を活用し、複雑多様化、複合化した生活課題を解決するための調整役としての役割や機能を担い、多様な主体による生活支援サービス体制構築に向けて事業を展開します。

4.「放課後児童健全育成事業」（放課後児童クラブ）

放課後帰宅しても保護者などが仕事などで自宅にいない小学校低学年の児童を対象に、放課後や長期休暇中に小学校の余裕教室や児童館等を活用して、適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全育成と安心して子育てができるための支援を行います。
(市内7カ所10クラス・定員380名)

特に、本年度は、放課後児童支援員の処遇改善を図り、放課後児童クラブのさらなる充実と安定した運営に努めます。

5.「認知症地域支援体制構築等推進事業」

「日向市認知症地域支援体制推進会議」を組織して、認知症の人やその家族が安心して暮らせる地域づくりを推進することを目的に、認知症を正しく理解していただくための啓発活動や認知症の人やその家族を支える人材の育成及び地域における支援体制の整備、早期発見・対応の仕組みづくりの推進に取り組みます。

～生活支援サポーターのフォローアップ～

スクエアステップ講習会

本会が平成２９年度から養成している生活支援サポーターを対象に、スクエアステップ講習会を開催しました。

講師として、国立大学法人 鹿屋体育大学 中垣内真樹 教授に「高齢者の効果的な介護予防とスクエアステップ」に関する講話と体験会を実施していただきました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Webツール「ＺＯＯＭ（ズーム）」を活用して、本会と鹿屋市をオンラインでつなぎ、講習会を実施しました。また、会場につきましても、新型コロナウイルス感染予防対策を充分に配慮いたしました。

◇ スクエアステップとは？

スクエアステップとは、高齢者の転倒予防・認知機能向上・体力づくりを目的とした運動で、マス目で区切ったマットの上でステップ（足踏み）する運動です。スクエアステップは**①身体を意識して動かすこと、②脳を刺激することの２つの要素を取り入れた運動で、“歩く脳トレ運動”といわれています。**

スクエアステップの特徴

①幅広い年齢に対応できる
②コミュニケーションを取りながら実施する活動
③集中力・記憶力が高まる
④意欲的に取り組むことができる
（ステップは400種類！）

◇ 講習会の目的！

これまで地域住民から「百歳体操と一緒に取り組める新しい運動を紹介してほしい」、「地域の介護予防活動に男性参加者が少ない」といった声があがっていました。**地域での介護予防活動の取り組みにも加えることで、生活支援サポーターとしての活躍の場を広げることを目的に実施しました。**

◇ スクエアステップ参加者の声！

□難しいのでは？と思いながら参加しましたが、とても簡単で、かつ楽しい活動なので、笑ってできました。
□地区の百歳体操、サロンや公民館活動でも活用してみます。
□簡単な運動なのに、体全体を使い、頭も使うので、いい運動だと思いました。
□とにかく、楽しかった。知らない人とでもコミュニケーションがよく取れ、楽しかったです。すぐに取り入れたいです。
□今ある地域活動のプラスワンとして、取り入れていきたい。

◇ これから…

生活支援サポーターが実施する高齢者の通いの場活動や地域活動での新たなメニューとして取り入れていただきたいと思っています。

スクエアステップを実施することで、サポーター自身の健康増進とこれまで介護予防活動に参加していない新たな地域住民を取り組むことができるのではないかと考えています。

引き続き、本会では、生活支援サポーターが多方面で、地域を支える人材として活躍できる環境をつくっていきたいと思います。

※「スクエアステップ協会」ホームページより　一部抜粋
スクエアステップの導入を検討中の個人・団体・法人等の皆様、他者への指導を行う場合は、必ず、スクエアステップ指導員資格を取得してください。

報告会へたくさんのご参加ありがとうございました。　参加者総合計：６６人（オンライン受講1名）

令和２年度　日向市生活相談・支援センター心からの報告会は、本市における生活困窮者支援の現状を共有し、多機関協働による相談支援のための支援ネットワークの基盤強化を目的に開催しました。少子高齢化の進行、多発する自然災害、新型コロナの流行…今や「生活困窮」は他人事ではない時代となり、センターには、令和2年3月から、これまでにはない多くの生活に関する相談を受け、相談者が抱える生活課題が顕在化されました。まさしく、困窮者支援、複雑な課題への取り組みが試された１年でした。

第1部「基調報告」

報告者：日向市生活相談支援センター心から　センター長　成合進也

生活相談・支援センター心からにおける生活困窮者支援の現状を報告しました。新型コロナウイルスに伴う特例貸付の相談が急激に増えており、前年度の新規相談件数の約2.8倍となる306件の相談と合せ、これまでの継続相談支援者数が1,177人に対応している状況を共有しました。

センターに寄せられる相談者の状況や社会的孤立に陥るプロセスを『孤立の川』『あきらめの谷』で表現し、求められている支援は、できることなら孤立の川を【渡らせなくてすむ支援】川の向こうに渡ってしまっても【また、戻ってこれるような支援】であり、生活課題を抱える人の自己責任にはしない、その人の背景や理由をしっかりと知る事が重要だと説明し、そのプロセスに導く事例を３つの分科会にわかれ、実践事例を踏まえて参加者と意見をかわしました。

第２部「分科会」

第１分科会「困窮者世帯支援」、第2分科会「社会的孤立の高齢者支援」、第3分科会「若者の就労支援」と３つの分科会で報告しました。ポイントはどの相談支援にも唯一の正解はないという事です。個別支援の現状や課題を『知る』ことは『学ぶ』ことにつながります。

～参加者からのご意見・ご感想～

・報告会に参加して「当たり前なんてない」という現実を改めて強く感じたのが正直な部分です。
　専門職として、関わっている方々が自分の姿・もしくは大切な人の姿であるかもしれない・・。
　そのような意識が「どうにかしないといけない」という働き方になっていくと思う。
・地域みんなで、気づく力を養い、つなぐ事の出来る、声をかけることのできる地域を作りたい。

第3部「全体会」

３つの分科会の報告や、参加者の意見を聞く時間としました。声を出せない相談者のその手に参加者それぞれの立場で、手を差し伸べてくださる事を期待し、また、その差し伸べた手を繋がれた専門職は、決して離さない覚悟を持って、地域住民や多機関連携で支援していく必要性が共通理解できたため、次年度からのやるべき事が明確となりました。

コロナ禍にて、参加者にはご不便をおかけいたしました。ご理解とご協力に感謝いたします。

令和3年度日向市ボランティア基金助成事業の募集について（ご案内）

「日向市ボランティア基金」は、主に昭和６３年に始まった「福祉のつどい」の収益金が積み立てられ、平成１６年１月に、「福祉のつどい実行委員会」より指定寄付がなされ、本会において「日向市ボランティア基金設置規程」と「日向市ボランティア基金運営委員会規程」を制定し、管理運営を行ってまいりました。

設置規程に規定する目標額４千万円に、平成２８年度に到達したことを契機に、これまで基金造成に関わった多くの個人や団体の意向を踏まえ、基金の目的や使いみち、今後の運用方法について検討してまいりました。

令和元年９月１９日に「日向市ボランティア基金助成事業実施要綱」を制定し、理事会での承認のもと、助成対象事業をスタートしました。令和３年度の助成団体を次のとおり募集します。ボランティア活動時の助成金としてご活用ください。詳細については、ボランティアセンター担当までお問合せください。

令和3年度 日向市ボランティア基金助成事業の概要

対　象　事　業	（１）ボランティア活動費助成事業（普及啓発及び広報、育成、研修事業） 採択事業数４件、令和３年度予算額４０万円 （２）ボランティア活動拠点整備事業 採択事業数２件、令和３年度予算額２０万円 （３）災害救援ボランティア活動事業 宮崎県内５０人、宮崎県外２５人、令和３年度予算額１０万円
申 請 対 象 者	日向市内を拠点としてボランティア活動をする団体及びその構成員、または日向市内在住者とする。
助　成　額	○対象事業（１）（２） 対象事業実施に必要な経費のうち、一事業当たり１０万円が限度。 ○対象事業（３） 助成金額の１人あたり１回の額は次のとおり。 宮崎県内　→　１，０００円／人・回 宮崎県外　→　２，０００円／人・回
募集（申請）期間	○対象事業（１）（２）：令和３年５月１０日～令和３年５月２１日 ○対象事業（３）：令和３年４月１日～令和４年３月３１日
委 員 会 審 査（ヒアリング）	○対象事業（１）（２）：令和３年５月２７日（予定） ○対象事業（３）：委員会審査なし
交　付　決　定	令和３年６月３日（予定）の社協理事会で決定
実 施 対 象 期 間	○対象事業（１）（２）　令和３年６月４日～令和４年３月２３日 ○対象事業（３）　令和３年４月１日～令和４年３月３１日
申 請 手 続 き	○対象事業（１）（２）　事業計画書、収支予算書等 ○対象事業（３）　災害ボランティア活動証明書
実　績　報　告	助成金交付を受けた団体等は、助成金の対象となった事業終了後、速やかに実績報告書の提出が必要です。

［問合せ先］　日向市ボランティア･市民活動センター　担当：加藤　正憲
TEL　52-2572　FAX　52-9562

じどうかん・センターだより

指定管理者として日向市から管理を受託して、事業運営を行っています。

ひちやじどうせんたー
日知屋児童センター ☎：52-8443

5月29日（土）

『もくもくオモチャ広場』（小学生対象）

☆子どもはもちろん、大人もはまる！！手作り木のオモチャが大集合！！虫採りに魚釣り、射的にホッケー、パズルなど種類もさまざま！！きっと、時間を忘れて夢中になりますよ♪

❀時　　間　１４：００～１５：３０
❀場　　所　日知屋児童センター　遊戯室
❀定　　員　３０名

6月4日（金）

『癒しのヨガ』（幼児親子対象）

☆Fun a roomの先生が基本から教えてくださいます。
春の風に癒されながら、身も心もほぐしましょう♡

❀時　　間　１０：１０～１１：３０
❀定　　員　１０組
❀持ってくるもの
・ヨガマット（無ければ厚めのバスタオル）
・水筒

※運動できる服装でお越しください。
※お子さんの持ち物には名前を明記してください。

だいおうだにじどうかん
大王谷児童館 ☎：66-1177

5月10日（月）

『安全教室（避難訓練）』（小学生・幼児親子対象）

☆「火遊びは絶対にしません！」
火事を起こさないために気を付けることを学習します。
もしも火事に遭遇した時に自分の身を守るための
避難訓練をします。

❀時　　間：１０：30～１１：30

6月5日（土）

『親子でリラックス♡』（幼児親子対象）

☆ママと赤ちゃんが肌と肌で触れ合うことから生まれる
「心のコミュニケーション」
椿美穂さんがベビーマッサージを優しく教えてくださいます。

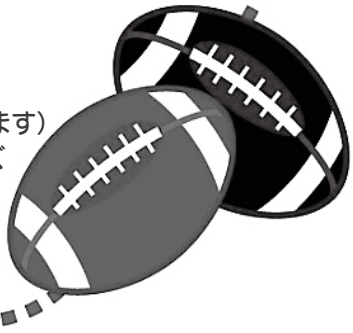
❀時　　間：１３：３０～１５：３０

6月26日（土）

日知屋児童センター・大王谷児童館合同行事
『スポーツ教室』（小学生対象）

☆スポーツが得意な君はもちろん、
苦手な君も絶対楽しめちゃう！！
君も、ラグビーのおもしろさを体験しよう！！

時　　間　９：２０～１２：００
❀場　　所　サンドーム日向
❀定　　員　１０名
（市内の児童クラブも参加します）
服　　装　体操服・体育館シューズ
持ってくるもの　　水筒・タオル



※いずれも無料で参加できます。
必ず事前にお問い合わせください。
定員になり次第締め切りとさせていただきます。
また、新型コロナウイルスの感染状況により、中止または人数制限をかける可能性があります。
その場合は、申し込みをされた方に直接ご連絡を差し上げます。皆様のご理解とご協力をお願いします。

新人紹介

事務局次長 兼 総務課長
黒瀬　大海

4月1日付けで、市から社協に派遣されました。
「ともに生きる豊かな地域社会」の実現を目指して頑張っていきます。気軽に声をかけてください。

☆マイブーム☆
小5になった三男が最近ソフトボールを始めたので、休日は一緒にキャッチボールをしています。

東郷支所　相談員
寺原　政志

何でも気軽に相談できるような相談員になるよう努めます。

☆特 技☆
そば打ち（かけそば用の汁も自分で作ります）

富高児童クラブ
米山　美由樹

一生懸命 笑顔でがんばります！

☆好きなもの☆
たこ焼きが好きです

財光寺児童クラブ
梅田　祐衣

遊び以外でも子どもから頼られる存在になります。

☆特　技☆
走ること

財光寺南児童クラブ
小八重　優子

目の前に与えられた仕事を全力で頑張ります。

☆好きなこと☆
旅行（今は行けませんが、計画をたてることが好きです）

香典返し・一般寄付ありがとうございました。

〈香典返し〉敬称略　　令和３年２月分

喪主(または寄付者)	故人	地区
岩倉正人	岩倉ツヤ	亀崎中
成合　徹	成合幸子	向江町
松葉藤吉	松葉千代	吉野川
柏田勝子	甲斐博信	金ヶ浜
矢野一彦	矢野恵美子	鶴野内
長山淑子	長山元治	高　砂
永野あゆみ	永野ヤス子	亀崎東
橋口　健	橋口　守	宮の下
長友市子	長友実雄	亀崎東
三樹喜久代	沢　モモヱ	永　江
井上勝一	井上利子	堀一方
長友正博	長友チエ子	山　下
小川アツ子	小川正行	往　還
橋口一美	橋口忠光	清　正
中野ツルヱ	中野拓郎	仲　深
山田早苗	山田哲也	江　良
黒木志農夫	黒木ノブ子	田の原

〈物品寄贈寄者〉敬称略　　令和３年２月分

氏名	地区	物品
橋口　健	宮の下	紙オムツ

〈香典返し〉敬称略　　令和３年３月分

喪主(または寄付者)	故人	地区
飯田はつ子	飯田道子	大王谷
石田泰三	石田久子	高　松
日髙光男	日髙ミツ子	梶　木
上村寿男	上村正子	伊　勢
近藤　勝	近藤米子	高々谷
甲斐恵美子	甲斐秀市	松　原
黒木静美	黒木清信	西川内
藤栄岩見	藤栄トミ子	迫野内
林田富子	林田利美	鵜　毛
安藤敏和	安藤勝子	高　松
日髙幸子	柏田　恵	梶　木
荻原文子	荻原久士	別　府
海野タズ子	海野修一	小野田
山口　均	山口保子	新財市
松羽チズ子	松葉芳信	松　原
柏田やす子	柏田昌章	江　良
山田サヱ子	山田藤一	中　村
中野慶子	中野　学	幡　浦
三浦弘子	三浦靜雄	仲　深
三樹キヌ子	三樹茂夫	北町２
森澤髙司	森澤露子	往　還
日髙澄子	日髙健治	堀一方

〈物品寄贈寄者〉敬称略　　令和３年３月分

氏名	地区	物品
西技工業㈱ 日向営業所	向江町	災害時非常用飲食物
林田富子	鵜毛	オムツ

【発行者】
社会福祉法人
日向市社会福祉協議会
［日向市生活相談・支援センター心から］
［日向市ボランティア・市民活動センター］

〔日向本所〕
〒883-0034　日向市大字富高207-3
日向市総合福祉センター
TEL(0982)52-2572／FAX(0982)52-9562
ホームページアドレス　http://hyuga-shakyo.or.jp/

〔東郷支所〕
〒883-0102　日向市東郷町山陰丙1265-2
日向市東郷地区総合福祉センター
TEL(0982)69-2116／FAX(0982)69-2274
Eメールアドレス　hyuga207@eagle.ocn.ne.jp

この情報誌は市民の皆様からいただいた社協一般会員会費で作られています。奇数月に発行。

この情報紙は再生紙を利用しています。
印刷所　有限会社　第一印刷